



東京部会(第39回)

日時:	2011年6月23日(木) 19:00-21:30
場所:	日本大学経済学部7号館13階会議室3
参加者:	篠原(同志社大)、新井(小石川中等教育)、杉田(千葉西高)、高橋(桜修館中等教育)、山崎(北海道豊富高:筑波大)、榊原(東証)、石山(東証)、中沖(清水書院)、神尾(第一学習社)加藤(日大)[順不同]

【内容要旨】

1. 篠原先生より、「先生のための夏休み経済教室」において現行教科書を使用し、新教科書は展示のみ(各社5冊程度)、(2)6/25札幌WSの内容確認、(3)8月に札幌でWSを開き、11月にいま一度勉強会を開く予定。札幌部会設立に向けての動きとしたい。(4)秋に福井大学でWS開催予定。
2. 新井先生より、「先生のための夏休み経済教室」の途中経過報告。(1)広報活動強化、後援関係については都道府県はほとんど依頼を終えた。(2)地歴に関するテーマを挙げていただき、概要説明、(3)地域との連携、(4)『経済セミナー』連載進行状況、(5)入試問題については2010年の入試問題を西村理先生にお送りした。現在、西村先生が検討中、(6)入試プロジェクト関係。昨年の総括は経済教育学会の紀要『経済教育』30号に投稿、2011年早稲田大学法学部の入試問題とその解答が予備校ごとに異なることが紹介された。また、高橋先生、杉田先生、山崎先生、上原先生(前橋高)、松井先生(三島高、現旭高)、山本先生(奈良学園高)による入試問題の改善提案資料が配布された。(7)2011年地歴入試問題<主要国立大学>が紹介され、細部にわたる出題状況が説明された。
3. 石山さんより、「先生のための夏休み経済教室」全部のチラシが配布され、現在の申し込み状況が説明された。配布資料の締め切りが7/22であることが確認された。
4. 山崎先生から、「地理歴史の事実をどのようにして経済の観点から読み解くのかということについて、具体的な問題をあげながら説明があった。これは筑波大学附属高校で日本史非常勤講師をお勤めになっている大学院生からの聞き取りにもとづく資料が配布された。
5. 高橋先生から、「中学校・高等学校「道徳」と高等学校「公民科」の狭間で～便乗値上げを例に課題を探る～」と題する実践事例が紹介された。道徳における考察と結論が公民におけるそれらとは異なる結果になる。公民科では東日本大震災において発生したガソリンを求める人々の行列をいくつかのタイプ(支払意志額は高いが高齢、お金のない付き合い始めたカップルなどに分け、いずれのタイプに高い優先順位が付与されるべきかを考えさせ、その後何か便乗なのかを考えさせるというものであった。これについてディスカッションが行われた。

(文責:加藤一誠)

次回開催予定: 7月14日(木)19:00~21:00。 7号館13階会議室3

議題: 1. 先生のための「夏休み経済教室」の打ち合わせ(全体、地歴関連のテーマ)。

2. 入試問題プロジェクト報告。

3. その他